

日本学術会議第二部会（第25期・第3回）
議事要旨

1. 日 時 令和3年8月19日（金）13:00～

2. 形 式 ビデオ会議

3. 出席者（敬称略）

第二部会員：荒井、池田、池邊、伊佐、石塚、磯、市川、遠藤、尾崎、越智、金井、狩野、神田、神奈木、北川、北島、木村、経塚、熊谷、五斗、後藤、小林、小松、佐々木、佐治、澤、杉本、杉山、高井、高山、多久和、武田、丹下、寺崎、土井、戸田、名越、西谷、仁科、西村（ユミ）、西村（理行）、深田、藤井、藤原、古谷、松田、松本、眞鍋、水口、三谷、光富、三村、宮地、村上、村山、望月、安村、山口、山崎、山本、渡辺

連携会員：秋葉（部附置分科会委員長）、喜連川（講演）

4. 議 題

冒頭、事務局から定足数の確認、武田部長から、本会合の趣旨説明がなされた。

（1）講演

磯博康会員が「我が国における新型コロナウイルス感染症への対処から見てきた主要課題と学術団体としての今後の貢献」と題した講演を行った。講演後、公衆衛生体制に関する議論の経緯や医療人材の育成、臨床試験の強化などについて、意見交換を行った。

続いて喜連川優連携会員が「コロナ禍に必要なものは digital ではなく heart?」と題した講演を行った。講演後、「研究者が競合するのではなく、協力して少数の強いモデルを作る」ためのアプローチや国立情報研究所と学会の取り組み事例、今後のレセプト情報のリアルタイムな有効活用等に関する意見交換を行った。

（2）25期のこれまでの活動について

梶田会長が、日本学術会議をめぐる状況として、国際活動、科学的助言機能および情報発信力の強化について、4月の総会以降に進めた取り組みについて説明した。CSTIでの報告に対する反応やカーボンニュートラルに関する連絡会議での議論に関連した意見交換が行われた。

望月副会長が、本日の会議の議題に関係する事項として、4月以降の幹事会の活動の中から、科学的助言の発出の議論や「パンデミックと社会に関する連絡会議」の設置、会員の選考委員会の設置について説明を行った。

（3）日学および二部での提言、報告作成のプロセスについて

武田部長が資料「科学的助言機能・「提言」等の在り方の見直しについて（検討素案）」に基づき、意思の発出方法や提言等の在り方についての説明を行った。

その後、日本学術会議で助言すべき事項に関する社会からのニーズの共有の必要性や、拡大役員会などの場を利用した議論の推進、査読のシステム、広報活動とのリン

クなどについて意見交換を行った。梶田会長は、ボトムアップによる提言作成におけるステークホルダーの意見交換の重要性についても言及した。今後、各部での議論をもとに幹事会において検討を継続し、10月の総会でも審議される。

(4) パンデミックと社会に関する連絡会議について

武田部長が、資料「「パンデミックと社会に関する連絡会議」の設置の背景と趣旨」に基づき、新型コロナウイルスに関するこれまでの取り組みや議論を説明した。また望月副会長が、当該連絡会議では、今起きていることとポストコロナの両方を扱うと補足した。さらに武田部長が、連絡会議の第1回会合では、①ワクチンを含む治療薬開発の在り方（緊急時の臨床研究の在り方を含む）、②コロナ禍で顕在化した分断と格差（医療、デジタル、経済の格差）、③コロナ禍での教育や人材育成などが、連絡会議が促進する提言のテーマ案として挙がっていることを紹介した。

部会員からは、提言のテーマとして科学的情報に関する問題（キーワード：disinformation, misinformation, ヘルスリテラシー、情報が少ない緊急時における“科学的”情報、ワクチンの説明）が挙げられた。また連絡会議の運営として、勉強会の企画や産業界からの参加が提案された。さらにon goingの問題への関与について意見交換を行った。武田部長は、部会員に対して、さらなる提案とともに積極的な関与を要請した。

(5) 分野別委員会からの報告

基礎生物学委員会、統合生物学委員会、農学委員会、食料科学委員会、基礎医学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、歯学委員会、薬学委員会の各委員長等が、資料に基づき、委員会の活動を報告した。

(6) 部付置分科会からの報告

生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会、大規模感染症予防・制圧体制検討分科会の各委員長が、資料に基づき、分科会の活動を報告した

(7) 課題別委員会の紹介

資料に基づき、今期、新たに設置された2つの委員会の活動について説明があった。まず佐々木裕之会員が「我が国の学術の発展・研究力強化に関する検討委員会」の活動を紹介した。会員からは研究評価分科会の議論との連携などが提案された。続いて武田部長が「ヒトゲノム編集技術のガバナンスと基礎研究・臨床応用に関する委員会」の設置と目的を説明した。武田部長は部会員に対して、アンケートや学術フォーラムへの参加など、課題別委員会の活動への協力を要請した。

(8) 予算執行について

丹下副部長が、資料に基づき、今年度は分科会あたり1回の会合分の予算は確保していること、年末までの執行状況や計画を把握した上で2回目以降の会合の再配分を行うことを説明した。武田部長からは、手当を伴わない会合の開催の手続きについて説明がなされた。

(9) 今後の会員選考について

丹下副部長が、資料「会員選考プロセスの透明性の向上-日本学術会議のより良い役

割発揮に向けて」に基づき、現在の検討状況について説明した。望月副会長からはまだ検討が始まったばかりなので会員から意見を頂きたい旨発言があった。

(10) その他

(学協会との連携について)

丹下副部長が、第2部は新型コロナウイルスに関連して日本医学連合や日本薬学会と連携して学術フォーラムを行っていること、学協会連携分科会で学協会との連携や学協会が抱えている問題について議論をしていることなどを紹介した。

(シンポジウム等の登壇者等における性別の偏りについて)

武田部長が、資料に基づき、学術フォーラムやシンポジウム等を企画される際には、登壇者等に性別の偏りがないよう留意していただきたいと要請した。

以上